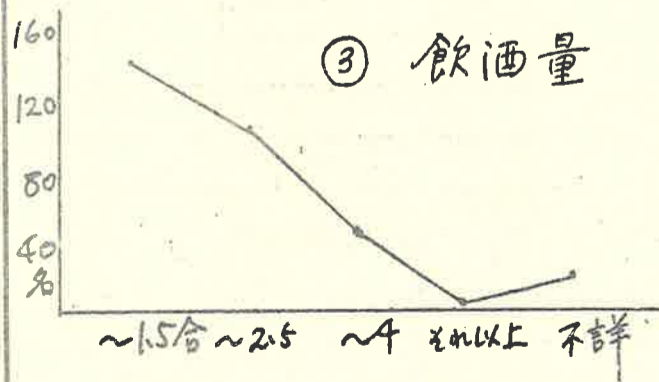
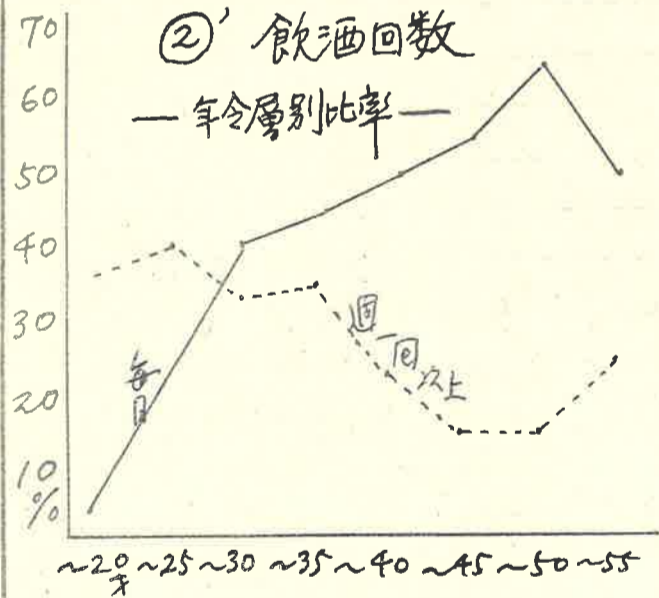
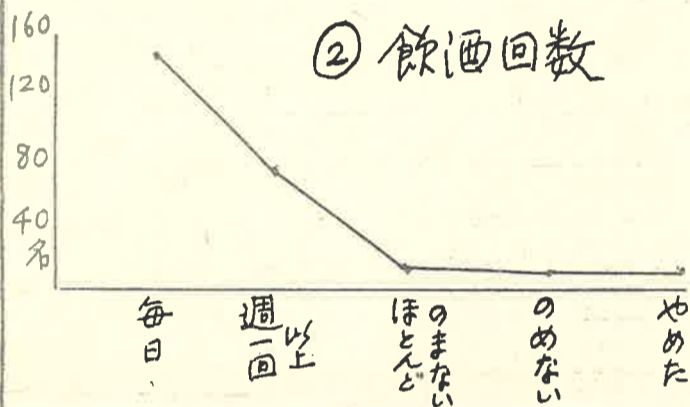
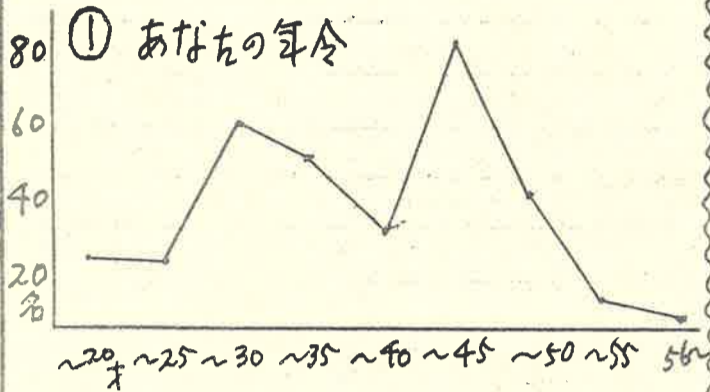


飲酒調査報告

調査の際はご協力ありがとうございました。
集計を検討しましたので大要を報告します。



お酒は百薬の長として人にたのみを与え、また生活に
いりとりをそえますが、反面気遣い水ともなり、からだを
損じ、家庭を破壊することも少なくないものですから、さうい
うことにならぬよう参考にして下さい。

- 昭和45年酒税総額(推定) 6000億円
 - アルコール消費量の伸びは金鉱工業生産伸び率を上まわり上昇
 - 鉄鋼業従業員の飲酒は各産業の中で大規模
 - アルコール中毒者は京浜鉄内に既に木田岩確認してあり、臨床面からみても増加の傾向、とくに青年層に、精神病院からの報告によれば、女性のアル中も急増中という。数年後が思いやられる。
- アル中の予防としては、まずアルコールについて正しい知識をもつことが必要。

- ① アルコールは麻酔剤である。
酒を呑むと酔って気持がよくなるが一方では神経が麻痺して苦痛がなくなり、適量をまわることがむずかしくなることが多い。
 - ② アルコールは嗜癖になる。
毎日飲んでいってしへきと言って、単なる習慣以上に毎日飲まずにはいられなくなる人がでてくる。
- 若いうちは時々飲んだ人が、次第に毎日飲むようになる。とくに夜勤後に目覚めるために飲むというやり方は、忽ちきまがわるくなり、5合から1合、2合になり、酒ではだめで、ウスキーになることが多い。
 - 朝から飲む習慣がつくと休日も朝からとなり、夜も夜もなりやすい。
 - 眠るためには酒にたよらずに環境をとのえること、心理的な緊張をとり、さしてよく目覚める心構えをつくる練習が必要
 - 5合以上毎日1年経つと10人に4人はアルコール中毒になり、4合以上10年経つと毎日経つとたいていの人がアル中になるという。